

ごあいさつ

はじめに、このたび熊本を中心として発生した地震で被災された皆様、および関係する皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今回は、最近テレビや新聞でたびたび取り上げられるようになった「大人の発達障害」についてお話いたします。発達障害は、もともと発達期の子供にみられる障害ですが、大人になっても障害が残っている場合があります。大人で問題になるのは、自閉症スペクトラム(自閉症やアスペルガー症候群等)と注意欠陥・多動性障害と言われています。特に大学生では、教室の移動が一人ではできない、人前で発表するのがむずかしい、ノートをとれない、友人ができないなどの形で障害が表面化することがあります。このような発達障害を本人も周囲も気づかないで過ごしていると、引きこもりやうつ病



宿泊研修出発前のひとコマ

につながる可能性があります。大切なことは、発達障害が疑われる場合は、できるだけ早く専門医に相談することです。

しかし、残念ながら成人の発達障害を専門とする医師が極めて少ないのが現状です。山口県では、下関市にある稗田病院(TEL:083-251-2121)が、大人の発達障害の専門外来を開設しています。この専門外来には、大人の発達障害分野で著名な本田秀夫先生(信州大学医学部附属病院診療教授)が、月に一度診療に来られています。また、稗田病院では、大人の発達障害を抱えている人々を支援するための「絆ネットワーク」を立ち上げています。関心のある方は、稗田病院にお問い合わせください。

最後になりましたが、発達障害者の社会的自立のためには、作業療法士によるリハビリテーションが重要な役割を果たしています。作業療法士に興味のある方は、ぜひ本校のオープンキャンパスにご参加ください。

2016年6月8日

専門学校YICリハビリテーション大学校
校長 中村 彰治

発行日:2016年6月8日

★学校行事のお知らせ★

6月

25日 第1回 保護者会

7月

19日～ 前期末試験
19日～ 4年生 第2期実習
25日～ 1年生 実習(作業)
25日～ 2年生 実習(理学)

8月

1日～ 2年生 実習(作業)
29日～ 国際交流(予定)

9月

8日 スポーツ大会
12日～ 3年生 後期開始
26日～ 1・2年生 後期開始

10月

8日 第1回 入試
(H29年度入学生)

11月

3日 際波祭
5日 第2回 保護者会(予定)

12月

3日 臨床実習指導者会議
19日 後期末試験(3年生)

国際交流特集

チュンヘ ～春海保健大学校(CCHS)・釜山カトリック大学(CUP)訪問～

平成28年3月14日～3月25日の期間、国際交流を目的に理学療法学科の学生10名と韓国研修に行ってきました。



福岡空港より飛行機～バスを乗り継ぎ、到着した学校は春海(チュンヘ)保健大学校(Choonhae College of Health Sciences:CCHS)です。本校の学生達も慣れない土地での長期滞在ということで緊張していました。しかし韓国の学生達が拍手で出迎えてくれたことで笑顔になり、それからはお互いにかたこと英語、韓国語と日本語を織り交ぜながらの会話で盛り上がりました。4日間一緒に講義を受け、病院・施設見学にも行きました。一番盛り上がったのはスポーツ交流。二人三脚で



走り回ったり、ドッチボールをして盛り上がりました!! 韓国の学生のダンスもとても上手でしたよ☆ 学生同士が仲良くなっていく様子を見てとても嬉しい気持ちになりました。「人は人の中で育つ」とは、まさしくこのことなのでしょう。

(理学療法学科教員 加藤 善範)



韓国での国際交流の後半は、10年来交流を続けている、釜山カトリック大学(以下CUP)です。昨年の夏に、CUPより10名の学生と教授1名が来日されました。その際に交流をしたメンバーもあり、さらにCUPの熱烈的な歓迎もあって、学生同士が打ち解けるのに時間は必要ありませんでした。お互いに自国のことをプレゼンしたり、ダンスを披露しあったり、一緒に授業を受けるなど、お互いの国の文化や、共に勉強している理学療法について深く分かち合うことができました。

また、韓国の方々の熱烈なおもてなしを受け、ホームステイで寝食を共にすることで、5日間という長いようで短い時間を濃厚に過ごし、学生たちの間には国境を越えた熱い友情が芽生えました。

(理学療法学科教員 島本 祐嗣)

私は12日間、韓国留学に参加しました。最初は、韓国語が全く分からないので、現地の人とコミュニケーションがとれるか不安でした。今回、学校交流は2校あり最初の1週間はCCHSに行きました。初日は歓迎会をしてもらい、放課後は一緒にご飯を食べたりしました。2日目からは学校で、お互いの学校紹介や学校内で使われている機械の説明、授業などを一緒に受けました。最終日には、お別れ会をもらい、その時に仲良くなった方が、この1週間撮っていた写真をムービーにしてくれました。

もう一つの学校(CUP)ではホームステイを体験しました。最初はとても緊張して、中々お互い話すことが出来ませんでした。少しずつ趣味や国について話したり、言語を教えあったりしました。CUPでは主に病院見学が多く、日本と韓国の病院の違いを知ることができ、また、韓国でのPTの現状や学校の授業風景も知ることが出来ました。韓国の友人もでき、私にとってこの留学はとても貴重な体験となりました。少しでも留学に興味がある人はぜひ行ってほしいと思います。私もまた行きたいと思います。

(理学療法学科3年 大石 莉彩)



授業の紹介

学科それぞれの特徴ある授業をピックアップしてご紹介

作業療法学科

～作業療法治療学ⅠB (高次脳機能障害) 3年～

作業療法学科教員 上原 奈緒子

脳の障害は、脳卒中や事故などによる頭部外傷によって起こります。脳には人間が生きていくための様々な機能があります。では、「高次」の脳機能とはどのようなものでしょう。これは人間が人間らしく生きていくための機能であり、犬や猫などの他の動物にはないものと言われています。例えば、様々な「道具を器用に扱うこと」、「言語」を使ってコミュニケーションをとること、「感情をコントロール」し、「問題解決の方法を考えること」などです。



作業療法士は、高次脳機能の障害により、日常生活に困難が生じた方の「新しい人生」を創造し、人間らしさの再獲得を目的に治療します。授業では障害の理解から、治療につながる一連の過程を学習しています。

作業療法士は、高次脳機能の障害により、日常生活に困難が生じた方の「新しい人生」を創造し、人間らしさの再獲得を目的に治療します。授業では障害の理解から、治療につながる一連の過程を学習しています。



理学療法学科

～地域リハビリテーション論B 3年～ (講師:山口地域ケアセンター 松永俊夫先生)

理学療法学科教員 松原 早苗

地域リハビリテーションとは、障害のある方や高齢者が住み慣れたところで一生安全に、いきいきとした生活が送れるように支援する活動です。理学療法を行う上では、常に患者様の生活や活動、社会への参加を考える必要があります。



この授業では、ケアマネージャーと訪問理学療法を実践されている松永先生から支援現場で必要となる面接技法やケアマネジメントについて学びます。そして何より、支援者として「患者様を何とかして支えたい」という熱い気持ちを持ち、患者様の人生と向き合うためにその人の身になって考え、本当に必要な支援を選び取っていく理学療法士としての心を学んでいます。価値観が違う一人ひとりについて、大切なことや生きがいを感じ取れる理学療法士になれるよう、真剣に取り組んでいます。



新入生インタビュー

作業療法学科1年 鹿取 泰晟

理学療法学科1年 西川 太志

Q.学校生活はどうか？



A. 今、学校はとても充実しています。勉強することは高校生の時に比べて増えましたが、やりがいはあると思います。

A. 入学して2カ月が経とうとしています。毎日たくさんのことを学び、覚えられないということに対して、大変に感じることもあります。しかし、同じ目標に向かって頑張っている学生と共に、たくさんの先生方の元、整った環境で勉強できていることを、とても嬉しく思います。

Q.宿泊研修はいかがでしたか？



A. 宿泊研修はとても楽しかったです。宿泊研修がきっかけで仲良くなった友達もいます。カレー作りなどいろいろ思い出になりました。

A. まだ話したこともない人がいる中での宿泊研修で、とても不安な部分もありましたが、野外炊飯やカルタ作りなどで、多くの学生や先生方とコミュニケーションをとることができ、とてもいい時間を過ごすことができました。

Q.今後の抱負は？



A. 今後はより勉強に力を入れたいです。学年が上がるごとに勉強も大変になると聞いたので、今の内にしっかり土台をつくりたいです。

A. 今、理学療法士になるという目標と共に、フリーガー(フットサル)になるため、日々トレーニングに励んでいます。学校が終わり、練習に行けば帰りが遅くなるので、時間をうまく使い、両立できるよう頑張りたいと思います。

サークル紹介 ～英会話サークル～

サークル部長 理学療法学科2年 下郡 明久

英会話サークルは部員13名で、毎週月曜日の放課後に1時間活動を行っています。外国人講師を招き英語でのコミュニケーション能力の向上を目的に、毎回楽しい時間を過ごしています。具体的に近況報告や提示された写真についての会話、様々な場面で使えるフレーズ、簡単なゲームなどを行っています。先生は、最初は流暢さよりも相手に自分の考えを伝える積極的な姿勢が大切だと話されました。慣れな



い英語に初めは戸惑いを感じるかもしれませんが、相手に自分が発信する言葉が伝わった時の喜びは素晴らしいものです。本校は国際交流に力を入れており、長期休暇にはホームステイや海外研修の機会があります。本校に入學して外国へ行ってみたいと興味を持っている方もいらっしゃるかと思います。この機会にぜひ私たちと英語でコミュニケーションしてみませんか？



あとがき

ここから通信No. 5いかがでしたか？学校のブログも合わせて見ていただくと、より伝わるとと思います。「学校のこんなことを知りたい。こんな特集を組んでほしい。」等ご意見ありましたら、ぜひ事務局までお知らせください。授業・国際交流・サークルの様子など、まだまだお伝えしたいので、次号もお楽しみに！次号No.6は2016年12月に発行予定です。(年2回発行)



URL <http://www.yic.ac.jp/rh/>